

横浜市小学校社会科研究会

5 学年部会

研修会記録

第 4 号

令和3年 12月 1日

横浜市小学校教育研究会

会長 後藤 俊哉

横浜市小学校社会科研究会

会長 梅田 比奈子

同 学年部長 田村 拓之

【提案日時】

11月 1日 (水)

提案 高森 太郎 先生 (大鳥小)

【会 場】

横浜市立 平沼小学校

司会 坂本 実 先生 (川和東小)

記録 加藤 拓 先生 (蒔田小)

1 提案内容 単元名

単元名「工業生産を支える人々～世界に誇るH社の自動車づくり」

2 提案者より

児童の実態として学習内容を自分事として捉えることに課題がある。工業生産の自動車づくりにおいては、児童を引き付ける導入の工夫として担任の経験(ウガンダでの生活)をもとにして児童の興味関心を引き付ける工夫をした。

視点① 学習計画づくり

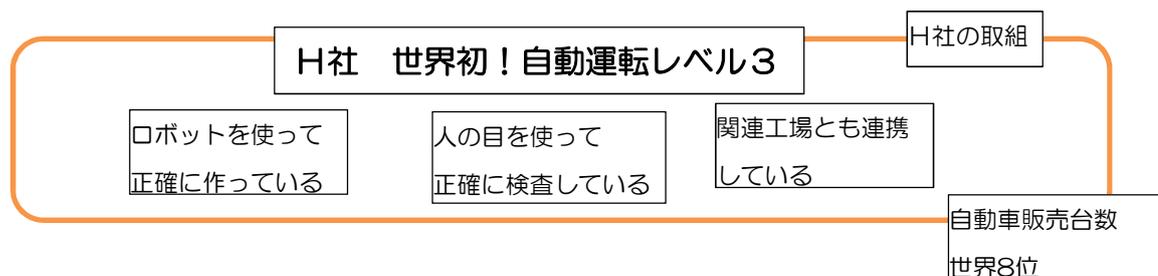
ウガンダのタクシーステーションにたくさんのT車(日本車)



どうして日本車がウガンダに?

性能がいいのかな?

たくさん作っているから?



視点② 本気の学習問題について

売り上げ台数世界1位を目指しているだろうという子どもの予想とH社がそれよりも自動車事故を0にすることを目指しているという「ずれ」から本気の学習問題「どうしてH社は、販売台数1位になることよりも自動車事故0にすることを目指しているのか」が生まれた。

課題：子どもがより本気になるためにはどうすればよかったのか

2 協議会

主に視点② 本時について

性能に着目だったが、人の営みに焦点化すると良かった。

販売台数と事故件数の対立軸は難しい。

本時で何を根拠に言っているのかの事実が見えてくると良いのではないか。

安全性は高い方が良いという考えに落ち着いてしまうので、もっと工夫や努力に注目できるとより、子どもは活発に話すのではないか。

授業記録C34に対して「責任？」と問い返し、事故件数について深めるという流れもあるのではないか。

本時は工夫と努力に迫れるとより、子どもが本気になれたのではないか。

「～なのに」で考えることができる工夫や努力を問題にできれば良いと思う。

<講師の先生より> 獅子ヶ谷小学校 大塩 啓介 校長先生

教材研究すると伝えたい内容が多くなりすぎて指導事項からぶれてしまうので注意が必要である。ウガンダの導入はとても面白く、日本の信頼をウガンダで見ることができる。生産の努力と工夫ということ考えた時、部品数が約3万個、日本全体でみると3秒に1台生産されているという事実や、思っていることと資料のギャップから学習問題が生まれてくると良い。「どうして」という理由を問うと別の根拠を見つけてこないといけない。「どのように」だと過程が具体的に見えてくる。学習問題の文言についてもこだわっていくことが大切である。

担当校長 新治小学校 宮本 雅司 校長先生
荏田小学校 伊藤 智樹 校長先生

文責 比嘉 将来 (西富岡小学校)